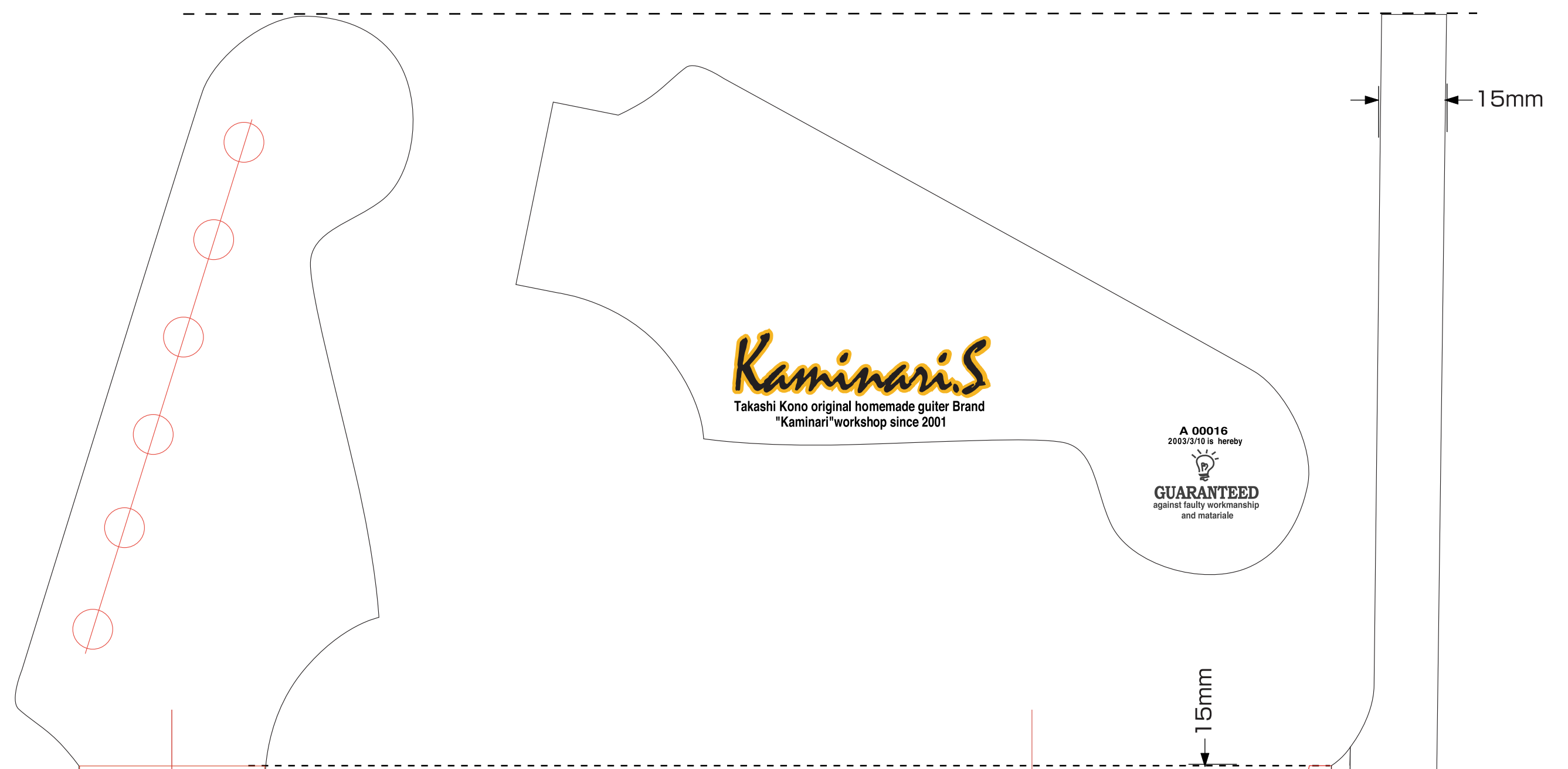


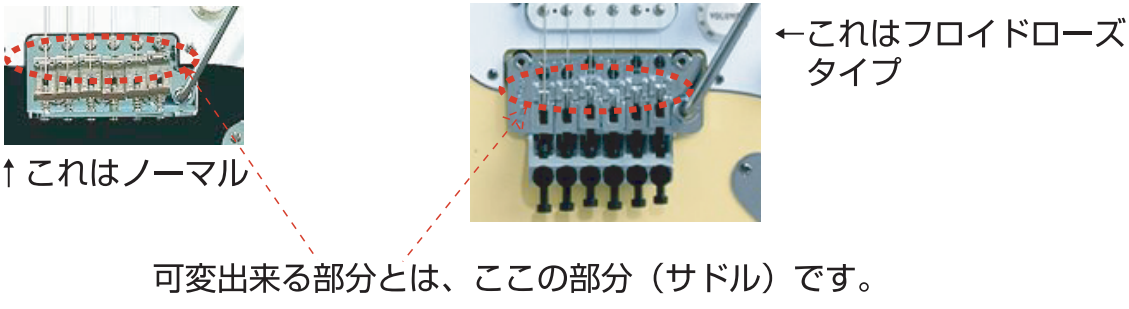
- Scale 648mm
 1/36.37
 2/70.70
 3/103.10
 4/133.69
 5/162.55
 6/189.80
 7/215.51
 8/239.79
 9/262.70
 10/284.32
 11/304.73
 12/324.00
 13/342.18
 14/359.35
 15/375.55
 16/390.84
 17/405.27
 18/418.90
 19/431.76
 20/443.90
 21/455.35
 22/466.17
 23/476.37



Scale 648mm(25 1/2インチ)

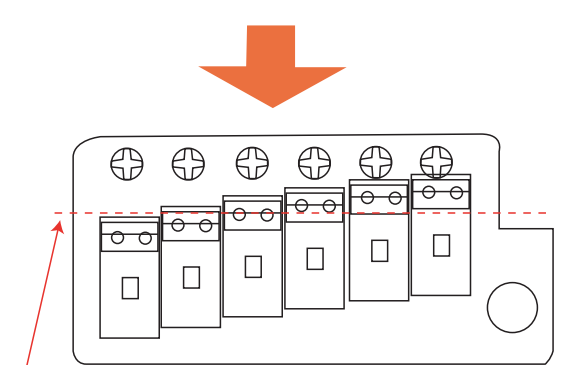
←この長さが「スケール」です。

■ギターのスケールとは！
 ナットの位置（つまり0フレット位置）からブリッジ（サドル）までの距離の事を言います。ただし、エレクトリックの場合はブリッジが可変出来るので、下の図のようにブリッジ位置を決めてから補正した方がよいでしょう。



このビスでブリッジを固定します。

取り付けの際、とりあえずこのブリッジの頂点位置をスケール（648mm）にあわせ、平行にした状態で、ブリッジ本体をビス止めします。

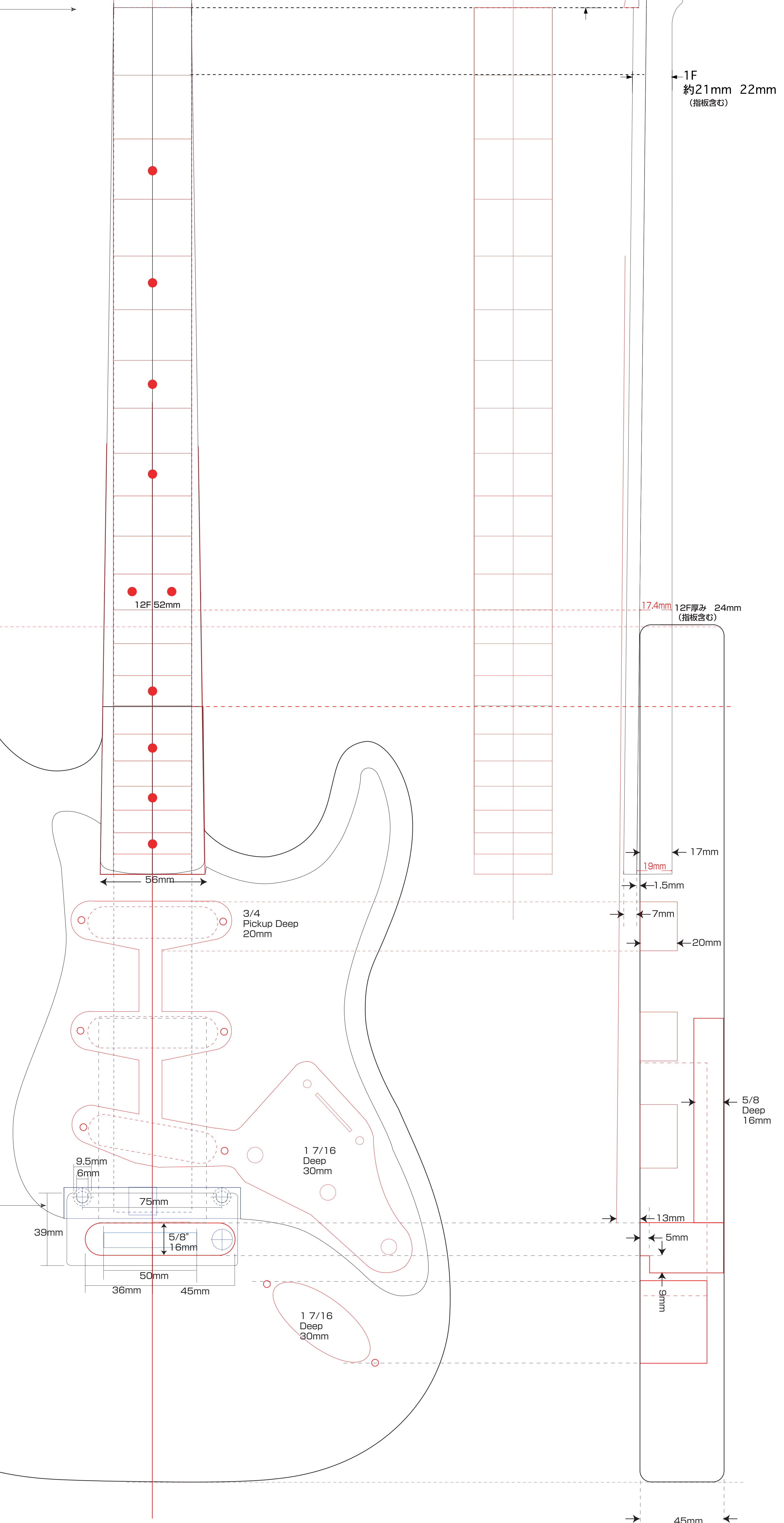


このようにサドルのコマを前後に動かしオクターブの調整を行います。

■補正（オクターブ調整）の方法
 スチール弦の場合、弦の振動は押さえたポジションからブリッジ（サドル）までの長さよりも、やや長い弦長の音で振動します。つまり正規の弦長よりも、実質的に短くして振動するわけですね。というわけで、この補正値は数値的に割り出すと何mmという数字が出ますが、ここは河野流の簡易補正方法で行きましょう。

よーするに！
 12フレットのハーモニクス音と12フレットをしっかりと押さえた実音が同じであれば良いのです。12フレットの実音がハーモニクス音より低い場合は、サドルをネック側へ動かします。逆に12フレットの実音がハーモニクス音より高い場合は、その逆。エンド側にサドル駒を動かします。（エレキの場合、ビスを回して動かさずから、これは簡単な作業ですね。ま、アコギの場合は、こーはいきませんが・・・）

で、各弦の実音とハーモニクス音が同じになれば（この時チューナー等で計りながら、この作業を行えばより完璧）オクターブ調整はOK!という事になります。



1F 約21mm 22mm (指板含む)

17.4mm 12F厚み 24mm (指板含む)

19mm 17mm 1.5mm

7mm 20mm

5/8 Deep 16mm

13mm 5mm

9mm

45mm

